

2026年3月12日
株式会社Arent

建設DXのArent、従業員10名がBIM国際資格 「buildingSMART プロフェッショナル認証」を取得

～IT・SaaS企業として国内有数の有資格者数。国際規格に準拠したBIM実装力を強化～

建設DXを推進する株式会社Arent（本社：東京都港区、代表取締役社長：鴨林 広軌、以下Arent）は、従業員10名が「buildingSMART プロフェッショナル認証」を取得したことをお知らせいたします。



■ 「buildingSMART プロフェッショナル認証」とは

本認証は、BIM（Building Information Modeling）の国際標準を策定する世界的な非営利組織「buildingSMART International（本部：英国）」が、BIMの知識とスキルを国際標準規格に基づいて客観的に証明する世界共通の資格制度です。BIMマネージャーの能力を認定する唯一の国際資格として位置づけられています。国内のIT・SaaS提供企業において、10名の有資格者を擁

する体制は国内でも有数の規模となります（※）。Arentはこれにより、これら高度な専門知識を持つ人材を中心に、国際規格に準拠した高品質な実装・支援体制をさらに強化してまいります。（※2026年2月時点、buildingSMART International公表の有資格者リストおよび国内主要ITベンダーの公開情報に基づく自社調べ）

■ 取得の背景：bSJ加盟から「BIM推進室」の発足へ

Arentは2025年12月のbuildingSMART Japan（bSJ）加盟時に、将来的なIFCの拡張（IFC5.0等）を視野に入れた対応や「アプリ連携型」データ流通の実現を掲げました。この方針を組織的に加速させるため、2026年2月より専門部署である「BIM推進室」を新設いたしました。今回の認証取得（PM 9名、BIMコンサル 1名）は、Arentが今後推進する高度な実装体制において、国際標準に基づく確かな知識基盤があることを示すものです。

■ 国際基準の専門知見を活かした、お客様への3つの提供価値

当社は専門的な知見に基づき、以下の具体的な施策をもってお客様の課題解決に貢献してまいります。

- **国際規格に準拠したシステム開発：**「IFC5.0」を見据え、正確な情報連携を可能にするデータ構造を定義・実装。
- **BIM運用の仕組み化：**国際基準に基づくBIMマネジメントの知見を用い、実務に即した運用のコンサルティング。
- **行政制度への対応：**国土交通省が推進する「BIM建築確認プロセス」など、公的標準への準拠を技術面から支援。

■ 取得メンバー（計10名）

五十嵐 理絵（PM）、籠池 斉志（PM）、北井 勇樹（PM）、佐藤 彰洋（PM）、茅根 哲朗（BIMコンサルタント）、土屋 雅博（PM）、野村 亮太（PM）、古澤 辰徳（PM）、山越 将之（PM）、吉田 昂生（PM）※取得日順

■ BIM推進室室長 水野裕介 コメント

孤独な決断に悩む経営者や技術者の時間を、共に未来を築く創造的な瞬間へ

「Arentは『暗黙知を民主化する』ことをミッションとしています。そのためには、ITの力だけでなく、建設業界の共通言語であるBIMへの深い理解・造詣が不可欠です。この度、全社で10名の国際認証保持者が各プロジェクトに誕生し、それらを横断的に支える『BIM推進室』が発足したことで、国際水準の規格・知見に基づいたDX戦略をより組織的に提案できる体制が整いました。これにより孤独な決断に悩む経営者や技術者の時間を、共に未来を築く創造的な瞬間の連続へと変えていく。それが、私たちが提供する支援の形です。」

【株式会社Arentについて】

「暗黙知を民主化する」をミッションに、建設業界のDXを推進する企業です。
クライアント企業と共に課題解決に取り組む「DX事業」と、自社SaaSを展開する「プロダクト事業」の二軸で事業を展開しています。

BIMを誰でも直感的に扱えるように設計されたRevit向けプラグイン群「LightningBIM」シリーズをはじめ、近年はM&Aを通じてグループを拡大するなど、建設業界が抱える構造的な課題をテクノロジーの力で解決しています。

会社概要

会社名：株式会社Arent

所在地：東京都港区浜松町2-7-19KDX浜松町ビル3階

代表者：代表取締役社長 鴨林 広軌

設立：2012年7月2日

資本金：12億8,653万6,388円

事業内容：建設・プラント業界向けDX支援、システム開発・販売

Webサイト：<https://arent.co.jp/>

以上